

今年の夏は格別暑かった。が、苦手な夏も、やれやれもう終わらした。

だけど、真夏の行事、お盆はとても気に入っている。炎天下、お墓掃除やお墓参りを故郷でした人も多かったことだろう。

わが家のお盆は、十三日夕の迎え団子で始まり、十五日夜の送り団子、送り船で終わる。その間、朝昼晩、精進料理を作ってお供えす

る。先祖の霊が帰って来て、喜んでいような気がする。特に「いいな」と思っているのは仏壇の右端にある「お

カワラナデシ」



揺れて紅淡く

前の罪の報いで「餓鬼道」に落ちた亡者のこと。ここに落ちた者は、不浄の場で、常に飢えと渴きに苦しむという。「無財餓鬼」と「有財餓鬼」がいて、前者は常に物を欲しがらぬ。後者はあり余る金品に恵まれながら、けちんぼで一層欲心をつのらせる。現実に思い当たる人がいそつではないか。

餓鬼供養をすると、餓鬼道から餓鬼を救うことができ、生きてる人も幸せになるか。

彼岸も近い。お墓参りの折は、「お餓鬼さま」もよく拜んでおこう。(た)

「お餓鬼さま」拜めば

「餓鬼」とは仏教語で、生